



<報道関係各位>

2019年12月25日
株式会社 QPS 研究所

QPS 研究所と JAXA の 小型 SAR 衛星「イザナギ」の状態を観測する共同研究について

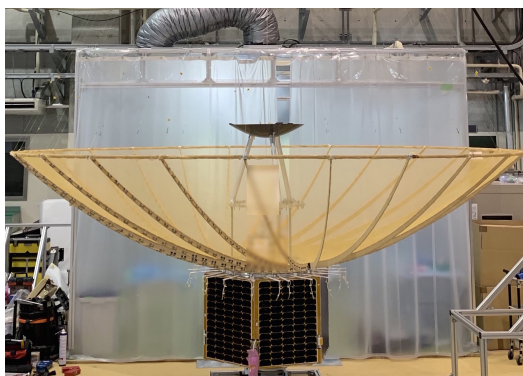
株式会社 QPS 研究所（以下、QPS 研究所）は、この度、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（以下、JAXA）と QPS 小型 SAR 衛星 1 号機「イザナギ」（以下、「イザナギ」）の状態を観測するための共同研究契約を締結したことをお知らせいたします。

通常、「イザナギ」の状態は交信で得られるデータから推定、確認しますが、本共同研究では、JAXA の 60cm 望遠鏡を使用し、イザナギの姿勢・運動状態を確認することを目的としています。このことにより、「イザナギ」の状態確認の正確性を上げることが可能になります。一方、形状及び姿勢・運動状態の分かっている衛星「イザナギ」のライトカーブ観測（※）を実施することは、ライトカーブによる宇宙機の姿勢や運動を推定する技術の精度向上にもつながります。この技術の妥当性が示されれば、JAXA が取り組んでいるスペースデブリ（宇宙ゴミ）除去ミッションにおいて、スペースデブリの姿勢や運動をミッション実施前に高い精度で予測する技術の開発に貢献します。

この共同研究は、弊社の小型 SAR 衛星によるリアルタイム観測網の実現と、JAXA のスペースデブリ除去ミッションの双方に有益になるものです。

（※）ライトカーブとは明るさの時間変化のデータのこと。観測対象物の自転周期や形状などを推定することができる。

<小型 SAR 衛星 1 号機「イザナギ」について>



QPS 研究所と約 20 社の九州の地場企業が開発・製造した小型 SAR 衛星 1 号機「イザナギ」は 12 月 11 日（水）にインドのアーンドラ・プラデーシュ州のシューリハリコートにある『サティシュ・ダワン宇宙センター』よりインドの主力ロケットである『PSLV (Polar Satellite Launch Vehicle)』の C48 に搭載され、高度約 570km の軌道へと打ち上げられました。QPS 研究所は、翌日の早朝に初交信に成功し、現在はアンテナを展開し、初観測データ取得に向けて調整をしております。この打ち上げは、QPS 研究所が目指す小型 SAR 衛星 36 機のコンステレーションによる地球上のほぼリアルタイムの観測に向けての大きな一歩となります。

<株式会社 QPS 研究所について>

株式会社 QPS 研究所は、九州の地に宇宙産業を根差すことを目指して、2005 年に九州大学名誉教授の八坂哲雄と桜井晃、そして三菱重工業株式会社のロケット開発者の船越国弘により創業されました。九州大学での小型衛星開発の 20 年以上の技術をベースに、国内外で衛星開発や宇宙ゴミ（スペースデブリ）への取り組みに携わってきたパイオニア的存在である名誉教授陣と若手技術者・実業家が幅広い経験と斬新なアイデアをもとに、現在は世界トップレベルの衛星情報ビジネスの創造を目指しています。創業以前より宇宙技術を伝承し、育成してきた約 20 社の九州の地場企業（北部九州宇宙クラスター）とともに人工衛星をはじめ、世界にインパクトを与える数々の宇宙技術開発を行っております。

プレス関係の方のお問い合わせ先
株式会社 QPS 研究所 〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神 1-15-35 レンゴー福岡天神ビル 5 階
担当名：有吉 Email: y.ariyoshi@i-qps.com